

「あっ♡や...もお...やらあ♡
お股...いぢるの...やめ、てっ♡よお...♡」

あー♡

ひい♡

はあ♡

はあ♡

い♡
あ♡
は♡

びい♡

あ♡
は♡
あ♡

「だあめ...ダメだよお...
ミソギちゃんにはもつと、もおっつと
気持ちよくなってももらわないとねえ...ヒヒ...」

「なんで...ミソギのカラダ...っ♡動かない、の...お♡」

「それはねえ...その首に付けた『魔道具』がキミの自由を
奪っているからなんだ♡」

くっ♡
あ♡
あ♡

くっ♡
あ♡
あ♡

「そしてその魔道具はキミを『魔物』に変えちゃうんだよお…♡」

!?

「え……ま、まも……の……?」

「そうさ。『シャドウ』っていつてね…
生命力を吸収し尽くして…キミのカラダをした全く別の
生き物(魔物)…お人形さんになっちゃうんだ」

「い…いやア!!ミソギ…そんな魔物なんか…に…
なりたく…ないよお…」

「もう遅いよ...♡」



「え…ミソギの…手足の…色が…
それに…感覚、も…何、こ…レ…」

あ…

何…?

ての

ての

ん…

「あ…♡
シヤドウ化が始まっちゃったねえ♡」

「これから徐々にミソギちゃんは化け物になっちゃうんだよ♡
可哀想だねえ…でもおじさんが見守っててあげるから
安心して化け物になっちゃっていいんだよおおオホホ♡♡」

「や、だ…ミソギ…そんなの…」

「カラダ……が……アー♡……つめたク……こわ、い……のに……
ドン、ドン……気持ち……ヨク……アツ♡……アー♡」

「細胞が変異する快樂は格別だそうだけど、こんな小さな身体で味わえるなんて、良かったねええ…」

「ア……♡兄ちゃん……タス……ケテ……」

「ミ……ソ……ギ………キエ……チャ……
ア……アア………アアアアア……♡」

『対象の変異完了を確認』

「あああ〜…♡
ミソギちゃん、完全にシャドウになっちゃったねえ〜♡
化け物になっちゃった気分はどうだい？」

「……ア〜……アアアア……♡」

「そうかそうか♡
「褒美にもっと気持ち良くしてあげようねえ」
「ヘヘヘヘヘ」♡」

「ア……♡ア♡……アア……♡」

「ココにたくさんのちんぽを呑み込んで
仲間を増やしていこうねえ……」

「ア♡」

「アア……フヤ、ス……」

「フヤ……♡」

「ミソギちゃんが孕む姿、早く見たいなあイビビヒッ♡」

「アッ……ア……ミソ、ギ……ハラン、デ……フヤス……♡」







